関東民放クラブだより

あけまして　おめでとうございます。

関東民放クラブ副会長　神山廣信

関東民放クラブは33回目の正月を迎えました。

関東民放クラブには21の同好会と3つの活動部門があり、仲間と一緒に活動することで親睦を深めています。

昨年新しく発足したSNSビデオの会は、スマホを入手してもうまく使いこなせないという悩みを解消するため、時代のニーズに対応する技術、知識を習得することを目的に立ち上げました。

全国交信で結ぶアマチュア無線同好会は50名余の会員を有し、地域自治会主催の防災訓練にも参加協力し、社会貢献も行っています。

コーラスの会は横浜市等のコンサートにも参加、また東阪の交流も年々盛んに。それぞれの同好会も充実した活動を続けています。

今年東京で開催される全国囲碁大会も楽しく、有意義な大会になるよう心掛けたいと思っています。皆様方の協力とご支援を。

気楽に楽しめるクラブに

新潟支部長　樋浦　孟

「朱鷺」の県から年頭の一声を申し上げます。新潟支部は近年、皆様と同様会員増強に努力してまいりました。お陰様で年度当初にまず広告代理店出身者2名、その後局出身者も続々入会、現在会員数88名です。

日頃会員それぞれが勧誘意識を持って飛び回ってきたお陰と、ありがたく思っております。

本年の抱負も第一としてはまず会員増強。次に同好会活動の活発化を第二番目とします。一昨年に始まった『お爺ちゃんの料理教室』は、少人数乍ら毎月のように開催されるようになっています。『マドンナランチの会』も継続していきます。それと『落語鑑賞会』では、新作、旧作など種々工夫してやってもらいます。

今年は戌年。当クラブの年男は5名です。正義感が強く、協調性もあり、面倒見もいいと聞いています。彼らの長所を拝借しながら会員相互が気楽に楽しめるクラブを目指してまいります。ご指導宜しくお願いします。

同好会活動で自分探し

長野支部長　神波　潔

長野支部は『自分探し』がモットーです。会員数は114人、昨年度6人の新会員を迎え、活気が出てきました。

同好会活動はそれぞれ頑張っていますが、私の体験を踏まえ二つご紹介します。

まず俳句同好会。季節毎に十数人が参加して句会を開催、何と初参加の私が特選句に選ばれました。その句が「母縫いし布グローブや針供養」。65句の中から選ばれ、その後は句作ノート片手に鉛筆をなめなめ苦吟しています。

もう一つが音読と対話の会。自分の好きな作品を朗読し、論評しあうのですが、私は詩吟をやっていますので、和歌三首を吟じました。

吟詠は腹の底から声を発しますので、他の参加者は驚き、気持ち良く詠ったのは本人だけ。ご迷惑を承知で、「奥の細道　平泉」などをやらせてもらっています。

つまり私は、同好会活動を通じて、『自分探し』の旅をしていました。そうだ、年を取ったら少しぐらい我儘でもいいじゃないか。今年もこれで行きます。

我が民放クラブ

静岡支部事務局長　中島昭彦

朗読グループは「月刊新聞・タウン誌切り抜き帳」を、一枚のCDにして施設や学校に配布。「静岡光の家」や県下中学校からの依頼が増えています。

家康ゆかりの史跡探訪が定着。春は桜とグルメ、秋は紅葉のバスツアーが人気です。

我がクラブには地域の活性化や文化活動を行っている会員が多く、特技を活用した企画を立案、会員の交流を深めたいと思います。